

お釈迦様最後の旅①

令和2年9月第2週放送

だいはいつねはんきよう

大般涅槃経というお経があります。これは古いお経で、お釈迦さまのお亡く

なりになる前の最後の布教の旅で出会った人々との事や、そこで説いた教え、そしてお釈迦さまの涅槃つまり臨終について書かれたものです。

おうしやじよう

王舎城、ラージャガハにある鷲わしの峰と呼ばれる山の頂にお釈迦さまがいらっ

しゃる際に、マガダ国の大臣ヴァッカサーラより「王がヴァッジ族を滅ぼそうと思っているがどうだろう」と相談を受けるところから、このお経は始まります。

そこでお釈迦さまは、付き従っていた弟子アーナンダに、ヴァッジ族が会議を開き協同して行動をし、法を守り、年長者を敬う、等の国が滅びない為の七つの大切な行いを実践しているのか・・・を聞いて、それが行われていることを確認します。これは実は以前にヴァッジ族にお釈迦さまが説いた教えでした。

その上でマガダ国の大臣ヴァッカサーラに「このような七つの行いをしているヴァッジ族を滅ぼすことはできない」と伝えます。ヴァッカサーラはそれに納得してマガダ国の王のもとに帰ります。

その後、お釈迦さまは王舎城の近くにいる修行僧を集めて、ヴァッカサーラに話した事と同じように、修行僧たちの集団が滅びない為の教えを説きます。

それは、修行僧たちが会議をしばしば開き、多くの人が集まる事、協同して集ま

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

り行動する事、定められた決まりごとを守って行動する事、経験豊かな長老たちを大切にし、その言葉に耳を傾ける事、迷いの元となる執着に支配されない事、静かな林に住むことを望む事、心を安定させ、まだ来ないよき修行者が来るように、またすでにいる修行者が快適に暮らせるように願う事、この七つです。

これが為されている間は修行者の集団に滅亡は無いというのです。

それ以外にも、いくつかの大切な教えを修行僧たちに説きました。

お釈迦さまを慕う修行僧が集まり、集団が出来ていたのですが、これはお釈迦さま亡き後も集団が存続していくための教え、といえるかと思います。

大般涅槃経では、このようなお示しの後に、お釈迦さま最後の布教の旅が始まるのです。

— 終 —